

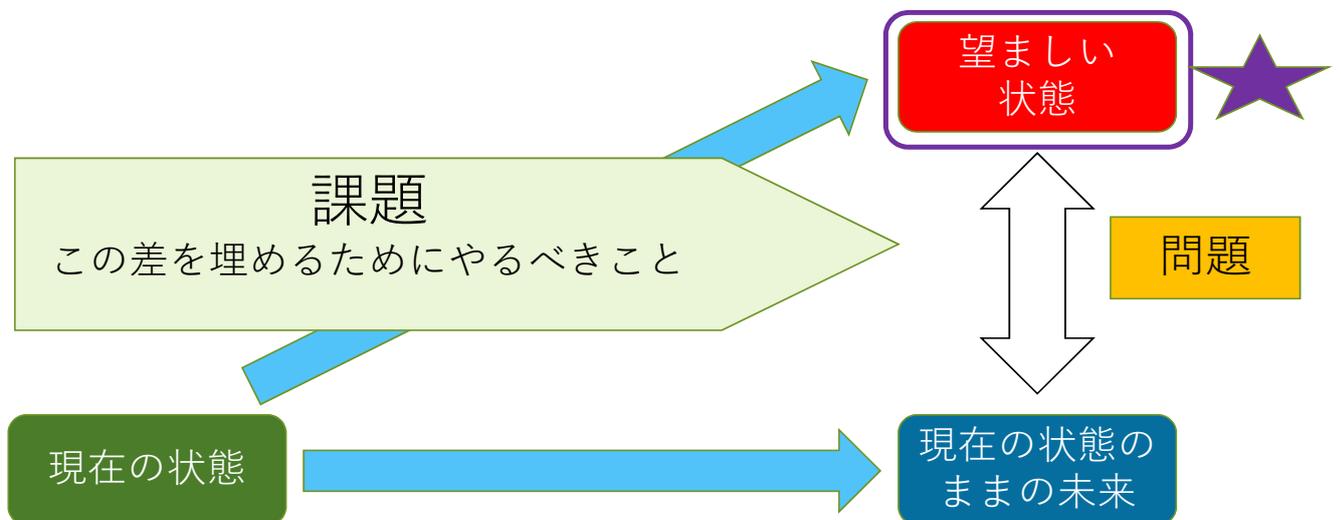
第2回 認定こども園のあり方を考える ワークショップ

日時：令和5年7月22日（土）10:00～

場所：西伊豆町中央公民館

ファシリテーター：静岡大学教育学部 島田 桂吾

第1回の振り返り



① 「小学校までに身に付けてほしい力」

I
自分と向き合う力

【例】

自律（立）（自分のことは自分です）遊びを楽しむ、生活習慣、好き嫌い、自分のペース、

II
人と関わる力

【例】

あいさつ、コミュニケーション、協働遊び、いじめをしない、聞く力

III
地域で活かす力

【例】

ルールがわかる、郷土を愛する、高齢者と交流できる、津波から逃げる

自尊心（仮訳：ありのままの自己を尊重し受け入れる）

3

基本理念『夢を育み、ふるさとを語れる人づくり』

基本目標『自ら考え・行動する人を育てる』

新しい時代に必要となる資質・能力の育成

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

I
自分と
向き合う力

II
人と
関わる力

III
地域で
活かす力

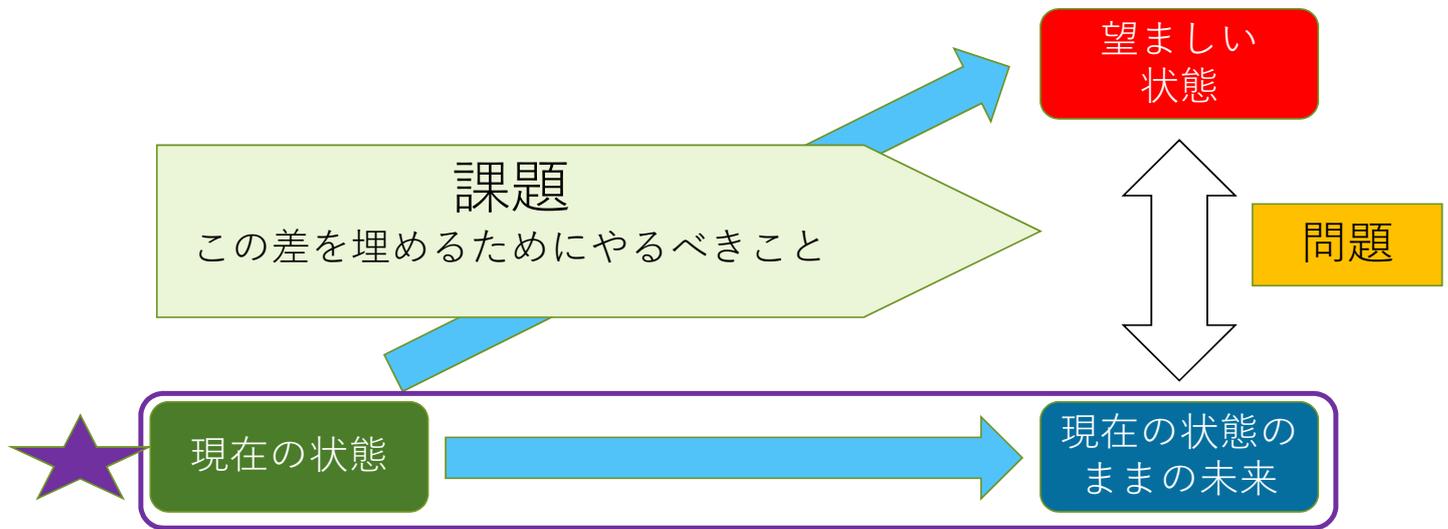
自尊心（仮訳：ありのままの自己を尊重し受け入れる）

義務教育以降

幼児期

4

第2回の視点



5

第2回の流れ

○「望ましい保育環境」から見た現況 （「バックキャスティング」）

- (1) 【平時】のこども園の現状と課題
⇒ 2つのこども園長先生からの報告
⇒ 「規模」に関する意見交換
- (2) 【非常時】のこども園の現状と課題
⇒ 2つのこども園長先生からの報告
⇒ 「立地」に関する意見交換

視点①【平時の保育環境】

○「望ましい保育環境」から見た現況 （「バックキャストिंग」）

- (1) 【平時】のこども園の現状と課題
 - ⇒ 2つのこども園長先生からの報告
 - ⇒ 「規模」に関する意見交換

共有&質問タイム①

○ こども園の「現状」（主に内容及び規模）について感じたことを意見交換してください。もう少し聞きたいことがあれば出してください。

事例：浜松市

(1) 提供体制の確保

① 「集団での学び」の充実を図るため、規模適正化に努めます。

- 1学年(3歳児以上)15人以上の園児の確保を目指し、統廃合などを検討します。
- 保育需要や既存施設の保育環境に合わせた、適正な定員の設定に努めます。

参考：西伊豆町出生児数

市町名	出生児数												H30将来人口推計による出生児数(5年平均)					
	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	Ave. H28-R2	Ave. R3-R7	Ave. R7-R12	Ave. R12-R17	Ave. R17-R22	Ave. R22-R27
県全体	32,041	31,477	31,146	29,732	29,272	28,597	27,119	26,167	24,558	23,355	22,493	21,815	27,572	24,812	23,556	22,477	21,189	19,956
管内計	380	372	353	321	298	287	243	252	227	201	183	166	268	213	179	157	136	117
下田市	146	133	129	120	114	125	102	105	81	68	80	65	100	78	65	54	46	38
東伊豆町	60	60	68	58	43	43	38	36	33	33	21	25	40	30	23	18	14	11
河津町	39	62	49	55	46	29	32	25	35	28	27	23	37	30	25	25	22	20
南伊豆町	61	45	34	42	42	29	32	37	32	29	29	30	39	33	30	29	26	23
松崎町	37	35	37	26	29	29	24	30	18	20	12	11	29	25	22	21	20	18
西伊豆町	37	37	36	20	24	19	18	24	23	20	14	12	23	18	13	10	9	7

※「市町別推計人口」(県統計調査課)を参考に作成

※前年10月1日から当該年9月30日までの出生児数を計上

※黄色箇所は、「H30将来人口推計による出生児数(5年平均)」を下回っている。

出生児数見込: 国立社会保障・人口問題研究所(平成30(2018)年)の推計結果

(注)「5年ごとの0~4歳の人数」/5年により平均人数を算出

視点②【非常時の保育環境】

○「望ましい保育環境」から見た現況
（「バックキャストिंग」）

- （2）【非常時】のこども園の現状と課題
⇒ 2つのこども園長先生からの報告
⇒ 「立地」に関する意見交換

動画 こども園の安全対策

- ・ 避難訓練の様子

共有&質問タイム②

○ こども園の避難訓練の「現状」について感じたことを意見交換してください。もう少し聞きたいことがあれば出してください。

事例：私立日和幼稚園（石巻市）



事例：私立日和幼稚園（石巻市）



事例：私立日和幼稚園（石巻市）

朝日新聞 2022年9月27日 朝刊 19ページ 岩手全県

「子の命を守るを一番に」

震災遺族ら静岡で講演

東日本大震災で子どもを亡くした遺族らが24日、静岡県御前崎市で経験を語り、隣の牧之原市では5日に、こども園に通う河本千奈ちゃん(3)が送迎バス内に置き去りにされて亡くなったばかり。遺族は「子どもの命を真ん中に置いて考えて」と語りかけた。

地元の災害支援団体が企画。大槌町の「おおつちこども園」（旧・大槌保育園）の八木沢弓美子園長(56)が経験を語った。地震直後、保護者に引き渡した9人の園児がその後の避難中、母親とともに津波にまれ犠牲になった。「なぜ帰ってしまったのか」と自問自答し続け、保育士を辞めなければならぬと思ひ、園児にも「『おうちへ帰らないで！』って言えばよかったじゃん」と言われたことを明かした。

震災で長女の愛梨ちゃん(当時6)を失った宮城県石巻市の佐藤美香さん(47)も、オンラインで講演した。愛梨ちゃんは、幼稚園の送迎バスが津波にのまれ、他の4人の園児とともに犠牲になった。牧之原市のことでも園での置き去りにも言及。「学校などの管理下でなくなるのは娘で最後にしてほしかった。目の前の子の命をどう守るかを一番に考え行動してもらいたい」と訴えた。(田淵紫織)

事例：福島県楡葉町立あおぞらこども園

1. 楡葉町の位置



17

事例：福島県楡葉町立あおぞらこども園

3. あおぞらこども園の概要

設立：平成20年4月

⇒公立幼稚園2園、公立保育所2所を統合し「幼保一体型施設」

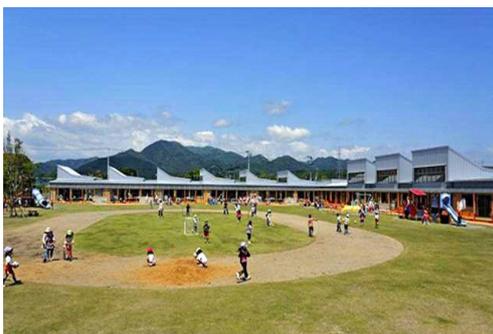
開園日：月曜日～土曜日

開園時間：7:30～18:30（短時間児は8:00～13:30）

園児数：震災前＝209名、平成27年度現在＝33名

職員数：震災前＝47名、平成27年度現在＝14名（臨時含む）

状況：平成23年3月12日に休園→平成25年1月5日に再開



事例：福島県楡葉町立あおぞらこども園



事例：福島県楡葉町立あおぞらこども園

4. 震災からこども園再開までの経緯①

平成23年

3月11日 14:46 震度6強 (M-9) 地震発生

14:49 大津波警報発令

15:00 町災害対策本部設置 (役場内)

15:27 第一波到達

15:35 保護者から津波情報を聞きスクールバス1台、園バス2台で
46人を保健福祉会館へ避難させる

16:36 原子力緊急事態宣言 (福島第一原発)

21:00 全員保護者のもとへ返す (職員は避難所運営)

3月12日 5:22 原子力緊急事態宣言 (福島第二原発)

☆楡葉町町長からいわき市長へ避難者受入要請

8:00 町の判断で全町民へ避難指示

⇒こども園職員は避難所開設準備のためこども園片付け

9:30 職員は全員いわき避難所へ (職員は全員避難所運営)

15:36 福島第一原発1号機水素爆発
害対策本部を移設

☆いわき市立中央台南小学校に町災

事例：福島県楡葉町立あおぞらこども園

4. 震災からこども園再開までの経緯②

平成23年

3月14日 福島第一原発3号機水素爆発

☆会津美里町（姉妹都市・災害時相互支援協定）との協議

3月16日 会津美里町「あやめ荘」へ179名を避難させる

⇒計7回にわたり約1,000名を移送

3月24日 会津美里町「あやめ荘」に「なかよしひろば」開設

⇒各クラス担当職員がこども園児の安否情報確認を行う

3月25日 楡葉町災害対策本部を会津美里町本郷支所内へ移転

3月27日 災害対策本部教育班保育担当1名

3月31日 先決処分により平成23年3月12日に遡って休園手続き

4月 1日 災害対策本部教育班保育担当2名

4月 3日 二次避難所（ホテル・民宿・旅館等）へ移動開始

4月 5日 会津美里町教育委員会と災害時広域保育入所、区域外幼稚園就園について協議

4月11日 こども園立ち入り 児童票の持ち出し

21

ワーク

○ こども園について「現在の状態のままの未来」の視点から「現在の状態」（保育内容・規模・立地）について①良いと思うこと、②不安・懸念だと思うことを書き出す

【進め方】

① 1つの付箋に「1つ」書く

② 書いた付箋を模造紙に「理由」を述べながら貼る

③ 関連がありそうな意見をいくつかのグループにまとめる。可能であれば「小見出し」をつける

④ 全体に向けて発表する方を決める

第3回の予定

